

佳作

きょうげんのぶたらしいだよ

兵庫県 神戸市立湊が森小学校一年 田内 天暁

「きょうげんなんかいやだ。はずかしい」とぼくはおもった。おかあさんがおにいちやんといっしょにぼくまでなつやすみのきょうげんのたいけんこうぎにもうしこんでしまった。ぼくはたいこをたたくやくがよかったのに、「いろは」というきょうげんをおにいちやんとすることになった。

なんできょうげんのなかでもおにいちやんはおにいちやんやくて、ぼくはおとうとやくなのかな。ぼくがたまにはおにいちやんのやくでもいいのにな。でもこのきょうげんないようはおもしろい。だっておとうとがかかっておにいちやんがくやしそうにするんだもん。これならおとうとやくのほうがいい。それにセリフもおとうとのほうがすくないしな。

でもぼくはセリフをおぼえるのがたいへんだった。むずかしいことばがいっぱいあったからだ。それに

うごきもおぼえないといけない。きょうげんのせんせいは、れんしゅうのときもきものをきている。せすじがピンとのびてきびしそうだ。でもぼくたちにはていねいにおしえてくれた。

「ぶたいのうえではひとりだよ。なにかあってもひとりでやるんだよ。」

とせんせいはいった。ぼくもちゃんとひとりで行けるかな。ぶたいでおおきなこえがだせるかな。

はっぴょうかいのまえのひは、おにいちやんといえでなんかいもれんしゅうした。セリフもだいぶおぼえた。よるねるときにはさいしよとちがってどきどきするけどあしたのしみとおもうようになったよ。

いよいよほんばんのひになった。せんせいかっこいいはかまをきせてもってがんばろうとおもったよ。ほんばんがはじまってぶたいのうえにたったときはやっぱりきんちゅうしたけど、セリフをいいはじめるとたのしくなってきた。おおきなこえがだせた。ぶたいのしたにはおきやくさんがたくさゆをくれてうれしかったよ。さいごにはせんせいたちのぶたいをみせてもらったよ。とてもはくりよく

があつてぼくはちよつとこわかつた。

ぼくはみんなのまえでなにかするのはどきどきするからにがてだとおもつていた。でもきょうげんのぶたいで、おおきなこえをだすのはほんとうにきもちがよかつた。いちねんせいのはぼくでもあんなにひろいぶたいでちゃんとおとうのやくができたことがうれしかったな。